

事業概要書

事業名	南相馬&杉並の子どもたちによる音楽劇復興プロジェクト				
開始日	2019年12月22日	終了日	2020年4月9日	日数	98日
団体名 (カウンターパート)	南相馬&杉並トモダチプロジェクト				
担当者名	狩野菜穂	スタッフ人数	10人(ボランティア含)		

事業費総額(税込)	8,000,000円
CF事業枠	500,000円
その他資金	クラウドファンディング、復興庁(3,300,000円)他

事業目的	南相馬と杉並の子どもたちの歌と踊りを通じた交流の継続と、プロのアーティストの輩出を目指し、原発の影響を受ける地域に「夢の種」をまき続けること
事業全体の概要	<p>●南相馬&杉並トモダチプロジェクトとは</p> <p>2011年、シンガーソングライターで当プロジェクト代表の狩野菜穂が、南相馬の子どもたちのためのオリジナル曲「みんなのうた」を制作したのをきっかけに団体設立。福島第一原子力発電所事故の影響で、外で遊ぶことが困難な子どもたちを支援するNPO団体の依頼を受けて制作したこの曲は、その後、南相馬の各地で歌われ、2013年からはテレビユー福島の夕方のニュース番組でエンディングテーマとしても使われた。同曲は、震災前から福島県南相馬市と災害相互支援協定を結ぶ東京都杉並区の小学校でも歌われ、2013年9月には初めて南相馬と杉並の子どもたちの合同音楽劇を東京の劇場で公演。その後、毎年約1回、南相馬市または杉並区で本公演を実施し、述べ7000人を集客。それ以外にも月に4~5回、週末などに南相馬市内外の福祉施設や伝統行事、津波跡地、杉並での復興イベントなどでステージに立ち、被災した地域の人々だけでなく公演を見た多くの人に感動を与えている。当初公演の舞台に立った子どもたちは、杉並と南相馬合わせて約40人程度だったが、7年目にして参加者は述べ100人にのぼり、かかるボランティアスタッフの数も10人と増えている。これまでにオリジナルの楽曲を20曲以上、年に1度の本公演を5回。南相馬を代表する「相馬野馬追祭」や杉並区で一番大きなイベント「すぎなみフェスタ」のステージ、福祉施設での公演など、この7年でのステージ総数は100以上にのぼり、震災後の南相馬にたくさんの元気な子どもたちがいることを伝え続けている。</p> <p>プロジェクトの目的は、南相馬と杉並の子どもたちの歌と踊りを通じた交流の継続と、復興途上の南相馬市に「夢の種」をまき続けること、の2つ。そのために、年に数回両地域の子どもたちの合同合宿や交流行事を実施。離れていてもお互いを「想いやる」気持ちで自然と生まれるとともに、ライバルとして互いを高め合う関係性ができている。また、単なる習い事やお遊戯としての歌とダンスではなく、本当の舞台を見て感動して</p>

もらえるよう、より本格的なステージの実現のために、プロの演出家やダンサーらが協力。プロフェッショナルに活躍する大人たちとつながり、より高いパフォーマンスを目指す意欲につながっている。南相馬では、自らの内面を表現する機会が少ないなか、ステージは我慢していた気持ちを表に出すきっかけにもなっており、一度ステージに立った子どもたちは結果的に生徒会長になったり部活の部長になるなど、リーダーシップを発揮している。悲しい出来事から始まった縁を、勇気と希望に変えていくプロジェクトを目指している。

●東日本大震災後の南相馬市と子どもたちの状況について

南相馬市は、東日本大震災で震度6弱の激しい揺れを観測し、沿岸部には津波が押し寄せ、多大な被害に見舞われた。さらに東京電力・福島第一原子力発電所の事故により、放射能汚染地域とされた街には、一時、物資や情報が届かず、住民は食料、生活物資、燃料の窮乏に苦しむことになった。その後も原発事故の影響で、住民全ての帰還は困難な状況が続いていたが、2016年7月12日に帰還困難区域を除いて、南相馬市への避難指示は解除された。しかし、居住人口は震災前の3割ほど減少した地区もあり、汚染土の問題や風評被害など子どもたちを取り巻く環境は厳しい。

●南相馬における当プロジェクトの役割

震災後、一度は南相馬を離れコミュニティが崩壊してしまった地域で、本プロジェクトを通じて多くの人が新しいコミュニティに参加し、震災以後の新しい人と人の繋がりが生まれた。同じ目的や意識を共有する仲間たちと出会えたことで、子どもたちのみならず、親たちもステージの手伝いやイベントへの送迎などを通じて、心の交流が盛んになった。また、南相馬だけでは吐き出しきれない心の内側の問題も、杉並という離れた場所にトモダチができたことで、親も子も心を吐き出し、支えてもらう場所を作ることができた。行政では手の届きにくい、カタチだけではなく真の心の交流を、一つの目標に向かって一致団結し合うことでなし得ていると思う。また本事業がスタートした7年前から参加しているキャストなどは、新しく入ってきたキャストの面倒を見たり、親子ぐるみで家族のような繋がりができつつあり、そうした交流を通じて、親も子も双方の心の成長に役立っている。

●取り組むべき課題とCivic Forceとの協働について

7年目となる当プロジェクトは、体を動かす場所が激減した南相馬の子どもたちにとって、もはやなくてはならない大切な居場所となっており、子どもやその親たちだけでなく、地域全体から継続を期待されている。質を落とさず、高いパフォーマンスの公演を継続的に実施するための体制づくりと資金集めが喫緊の課題となっている。他方、2020年2月の本公演でかかる予算は480万円ほど。主には、舞台の照明・音響、音楽スタッフ、会場費、舞台制作費で200万円程度。脚本・演出、音楽、衣装、大道具、振り付けなどの制作費が180万円程度。南相馬と東京へ行き来する子どもたち、スタッフ、講師など総勢50名の移動費、宿泊費などが100万程度。宿泊費などが100万程度。本事業はこれまでこの公演費用および通常レッスンの運営費などを含め、半額を国の補助金、半分をクラウドファンディングや

協賛企業などから集めた資金、参加するキャストから参加費用、チケットの有料販売などでまかなってきたら、震災から時間が経ち官民双方からの支援が減る中、今年度は昨年に比べて支援額が大幅に減り資金調達に大変苦労している。通常レッスンの講師人数を減らしたり、交通費をかけないためにバスや自家用車を利用するなど、節約する努力をしているが、これまで続けてきた通常レッスンの運営に支障をきたす状況になりつつある。

ステージをみてそこから夢を持ってくれる子どもたちを生み出すために、一定のクオリティを維持したステージが必要で、またステージの依頼や参加を希望するキャストは着実に増えている。しかし、それに伴い増大する事務的作業が追いついておらず、事務作業を担うスタッフの雇用が必須になっている。現在は、主に代表の狩野がレッスンやステージおよび事務的仕事もこなしているが、事業を将来も継続的に運営していくために、今回、Civic Forceとの連携を通じて、事務局機能の強化を図りたい。具体的には、直近の本公演への一部助成を通じて公演を成功させるとともに、次年度以降の活動継続と発展につなげるための事務局機能の強化を図る。

●パートナー協働プログラム対象事業

1) コンポーネント1：2020年2月本公演の実施と発展

南相馬&杉並トモダチプロジェクトの第6回本公演音楽劇「みんなのうた～Be Here now」は、2020年2月23日と24日、東京都杉並区の「座・高円寺2」で開催する。今回の舞台では、南相馬市をはじめとする福島の名産品や景色、文化などを取り入れ、その伝統や魅力を発信する。特に福島風評被害払拭やイメージアップにつながるような舞台を開催するため、福島からたくさん名産品や町の特色を生かした舞台セットなどを高円寺に運ぶ。そのためにかかる費用や、南相馬から参加する子どもたちの移動手段・宿泊費の一部などを、当事業で支援する。

2) コンポーネント2：事務局機能の体制強化

参加キャストの増加やステージの依頼の増加などに伴い、事務的作業が増えるなか、今後も継続的に事業を運営し、さらに発展させていくために、7年目の今、事務作業を立て直し資金調達についても考え事務局機能の体制強化を図る。

●期待される効果

①本事業を広く様々な場所で知ってもらうことができ、さらにプロジェクトに参加するキャストや協力者の増加を見込むことができる。また、現在のキャストや保護者たちにも、目に見えた目標を持ってもらうことができ、本活動に参加する意義を再確認してもらうことができる。新しい人と人の繋がりが生まれ、震災後、風化しそうな南相馬の現状を継続して杉並区や日本全国に発信することができる。

②キャストや保護者の管理体制が整い、資金の調達を専門的に考えてくれる人可以

	で、事業の円滑な運営ができるようになる。	
	事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
1) コンポーネント1 : 2020年2月本公演の実施と発展 2020年2月23, 24日 杉並区「座・高円寺」にて、全キャスト参加による音楽劇を上演。オリジナルの脚本・演出に、オリジナルのメインテーマ、それに基づくダンスなどを披露し、福島、南相馬の子どもたちの「今」を伝える。制作はプロの演出家、音楽家、ダンサーなどにより構成される。 総制作費用 480万円		参加キャスト 40名 制作スタッフ 20名 ボランティアスタッフ 20名 観覧者 500名
2) コンポーネント2 : 事務局機能の体制強化 かねてより本事業に携わってきたボランティアスタッフの人件費の一部を支給。また新たに会計担当スタッフを募り、円滑な事業運営につなげる。将来的には助成金に頼らず、自立運営させながら、南相馬に根をはる事業を目指す。		スタッフ 2名